

シン・研修報告書 富山県医療ソーシャルワーカー協会

研修会名

第16回 富山県ソーシャルワーカー三団体合同研修会

ソーシャルワーカーデイ 2022 in とやま

地域共生社会の構築について

～地域の実情に応じた地域共生社会の実現を推進する～

講師：南砺市地域包括支援センター 主幹・センター長補佐

富山県医療ソーシャルワーカー協会会長 竹内 嘉伸 氏

開催日：令和4年11月19日 13：30～16：00

場所：サンシップとやま 701号室

参加者の声：みどり苑 横井勝聡さん

竹内会長の講義のあと、2つのロールプレイを行った。

講義は「地域共生社会の構築について～地域の実情に応じた地域共生社会の実現を推進する～」というテーマで、理念や考え方、背景、実現に向けた具体的なアプローチなどを学んだ。地域との繋がりをどう回復するか。地域共生の基盤とは何か。地域共生社会の実現において欠かせないものとは何か。大変丁寧に解説され、とてもわかりやすい講義であった。支援の両輪となるのは具体的な課題解決を目指すアプローチとつながり続けることを目指すアプローチ。つながる、つなげるだけでなく、つながり続けることが重要。つながり続けることはとても難しい。つながる、つなげるだけで終わったケースがどれだけ多いことかと反省させられる。本人を中心として寄り添う意識を持って支援にあたる重要性、「人と人とのつながりそのものがセーフティネット」であることを改めて意識したい。

ロールプレイはある事例をもとに2つの場面を想定し実施した。1つ目のテーマは「どのように本人家族の気持ちに答えるか」、2つ目のテーマは「本人家族の支援方針をどのように設定するか」。11のグループに分かれ、それぞれでシナリオ(本人役、家族役、介護支援専門員役等のセリフ)を読み合わせる形でロールプレイを行った。今回は学生も多く、各グループに1～3名参加していた。決められたセリフを読み合わせるものではあったが、学生からは「家族の気持ちになってみると○○ということがわかった」などの意見もあり、ロールプレイという手法の重要性もしみじみ感じるよい時間であった。

今回は久しぶりの対面で開催された研修であり、懐かしい緊張感で参加することができた。学生の参加も多く、よく考え、立派に意見を表現する姿がとても頼もしかった。今後もぜひ積極的に参加し、様々な年代、職種、立場の方々から刺激を受け自分自身を高めていきたい。

研修会の雰囲気



広報事業の一言つぶやき

「人と人とのつながりそのものがセーフティネット」の言葉は心に響きますね。クライアントに対してもですが、クライアントの支援を効果的に実践するためにも、ソーシャルワーカー自身が様々な機関や専門職とのつながりを日々の業務でどの程度意識して実践するかが大切であると改めて考えさせられました。